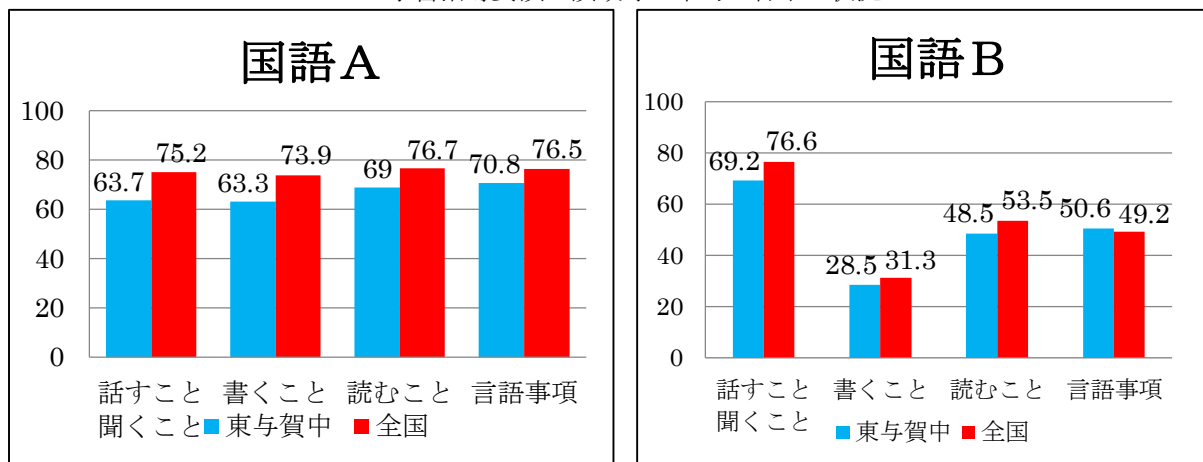


1 国語

(1) 結果

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況



国語Aの全体正答率が本校は69%、全国は76.1%と7.1ポイント下回っている。国語Bの全体平均正答率が本校は55%、全国は61.2%と6.2ポイント下回っている。無解答もある。

(2) 各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと

- 国語A、Bともに「話すこと・聞くこと」すべての設問で全国正答率を下回っていた。特に、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す、質問の意図を捉えるなど、5ポイント以上下回っている。普段から、話を集中して聞く視点をもたせ、相手に伝わりやすい話し方の工夫を国語の授業で行い、さらには、国語の授業だけではなく、日常生活や集会でも話し手の意図を考えて聞いたり、聞き手を意識して話したりする機会を多くもつことで、「話すこと・聞くこと」の力を付ける必要がある。

書くこと

- 国語A、Bともに全国平均を下回っている。全国正答率を上回っていた設問は、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題で、1.4ポイント上回っていた。それに対して、段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にするは23.7ポイント下回っていた。選択式の問題であっても、内容を文章構成から読み取った上で書くことに困難を感じているようである。普段の授業で「書くこと」そのものには抵抗なく取り組む生徒が多い。ただ、語句語彙の選択や推敲については、今後、授業や日常生活の会話の中で力を付ける必要がある。

読むこと

- 「読むこと」は国語A、Bともに全国平均を下回っている。文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えるは全国平均を6ポイント上回っている。それに対して、段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てるは18.1ポイント、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解するは11.8ポイントそれぞれ下回っている。文章全体の流れをつかみ、部分の役割を捉え切れていない様子がうかがえる。授業の中で、物語の大まかな流れをつかむことや要旨のまとめ等に取り組む必要がある。

言語事項

- 「言語事項」は、国語Aは全国平均を下回っており、国語B問題は全国平均を上回っている。語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の「せきを切ったように」は全国平均を3.7ポイント、「先生が…おっしやった」は1.1ポイント上回っている。しかしその他はすべて全国平均を下回っている。漢字帳を用いた書き取り指導や辞書の活用などで語彙力を高める必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業において、話す・聞く活動では、目的に沿った話し方や聞き手を意識した話し方を身につけるよう指導していきます。
- 普段から文章を読み解きながら要旨をまとめたり、自分の考えをまとめたりして書く力をつけ、さらには推敲力や語彙力をつけていきます。
- 授業の中では国語辞典や漢和辞典の活用で語彙力の向上を目指します。

【ご家庭では】

- ご家庭でも会話を楽しみましょう。聞くときは最後まで聞き、話すことは文末まできちんと話しましょう。話をする中で根拠を尋ねたり、互いの考えを交流したりしましょう。
- 分からない言葉の意味を辞書で調べましょう。(国語辞典は必需品です)
- 今習っているところの音読・漢字練習やノートやワークブック、国語資料集を使って復習しましょう。さらには、テストの後にはもう一度解き直し、分かるようにしておきましょう。